



「にぎわいの花、咲かそうく秋」 大和未生流展より 奈良町にぎわいの家

奈良町にぎわい通信

Vol.31

二〇一七・立冬〜小雪

発行
奈良町
にぎわいの家





浅山美由紀アート作品コラボパフォーマンス
作品解説に身体表現、生演奏と贅沢な時間が。

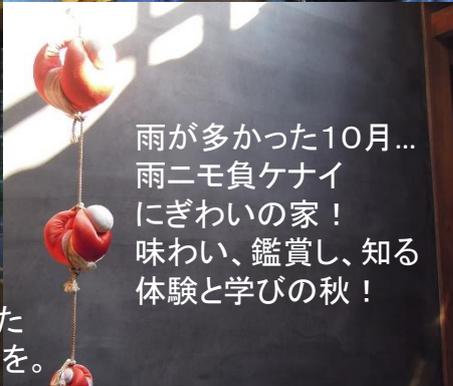
菊岡統政先生の
「チャップリンと私」

菊岡統政先生



100年企画・町家講座
「奈良町の価値と未来」

長年、奈良町の町づくりに携わってこられた
木原勝彬さんが、未来に向けてのビジョンを。



雨が多かった10月...
雨ニモ負ケナイ
にぎわいの家！
味わい、鑑賞し、知る
体験と学びの秋！



煎茶ならではの
趣きと味わい



かまど体験
「栗ごはん」



玉川遠州流による
茶会(煎茶)

奈良町にぎわいの家 10月のイベントから



雨の中でもケン玉に夢中！
ケン玉名人による検定も。



蔵の中で
手作りの影絵を。

親子で熱心に鑑賞。



幸福の王子

モチモチの木

わらべうたフェスタ！



とんとん相撲、
折り紙で作って...



はっけよい、のこった！



自分で
動かして
遊びました。

当館100年企画「チャップリンと私」(10/7) レポート



先生のかつての教え子の方も。



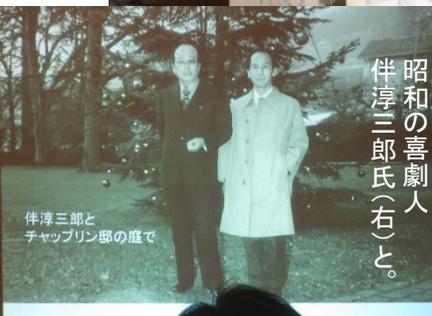
チャーリー・チャップリン

Charlie Chaplin

1889.4.16-1977.12.25



当時の映画
パンフレットも。



昭和の喜劇人
伴淳三郎氏(右)と。

伴淳三郎と
チャップリン邸の庭で

20世紀最大の映画人、チャップリンゆかりの方が奈良にいる！それが菊岡統政先生でした。今から40年前に、日本ヘラルド映画社が募集した、チャップリンの小論文で最優秀となり、スイスのチャップリンの自宅を訪問された方です。長年、奈良の中学、高校の英語の教諭として、チャップリンの映画のセリフを授業に取り入れたり、また本や新聞にエッセイを書かれたり、チャップリンの素晴らしさを伝えてこられました。折しも今年にはチャップリン没後40年の年。この講座では、先生が若かりし頃、「尾花座」(現在はサンルート奈良)で見た「ライムライト」の感動や昭和を代表する喜劇役者、伴淳三郎氏とスイスの自宅訪問時のエピソード、そして日本文化と自らの家族を紹介した、手作りの冊子をウーナ夫人(チャップリン妻)に渡し、大変喜ばれたことなど、貴重な写真と共にお話されました。中でも一番印象に残ったのは、菊岡先生のもとに届いたチャップリン直筆のクリスマスカードです。そのカードが届いてすぐに、チャップリン逝去のニュースが世界を駆け巡りました。菊岡先生の元に届いたのは、まさに「最後のクリスマスカード」だったのです。(先の手製のプレゼントへの御礼の言葉もありました。)さて、チャップリンは、貧困の中で子ども時代を過ごしました。多感な時期に人生の辛苦を味わったチャップリン…。けれど、母、ハンナへの愛が生涯、彼を支えました。菊岡先生は、講演の最後にチャップリンの映画「独裁者」の最後のセリフを、ご自身の訳で朗読されました。映画のヒロインの名前は、チャップリンの母と同じ「ハンナ」。そのハンナへ、自由の尊さと生きることに励ましに満ちたセリフが続きます。それを86歳の菊岡先生が口にする時、チャップリンの言葉は今も確かに生きていて感じました。町家で聞くチャップリン、100年の時間が重なりました。

おのこまち(当館プロデューサー)

つし二階アート企画vol.13浅山美由紀展 「そしてここから生まれる」コラボパフォーマンス

当館の築100年をイメージしての現代アート。約1ヶ月に渡った好評の展示とコラボした即興パフォーマンスを10/14開催。身体表現は中村晴日さん、音楽は、はくさんまさたかさん。赤い空間の中で、まるで生まれる前の動きのような中村さん。そこを飛び出し、座敷へと進み、やがて庭へと至ります。はくさんさんは、自身が作った楽器で、その体の動きと共鳴するように、音を生み出していきます。独自の音が、町家と響き合うように、広がっていきました。浅山美由紀作品の「生」のイメージが、お二人によって広がったパフォーマンス。当館では、初めての試みでしたが身体、音楽、町家空間の可能性を感じたイベントとなりました。



作品の中で「生まれる」...



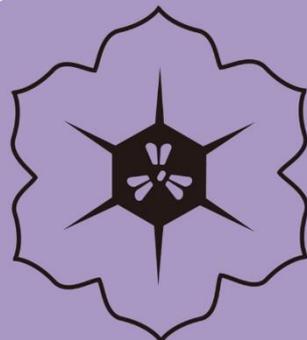
外の世界へと...



庭と身体の面白さ

高き枝に木守柿ひとつ
立冬の傾くひかりに
火照りてみたり

高い枝に木守柿が一つ、
立冬の沈む夕陽の光を受けて
火照るようにありますよ



オリジナル節気短歌
喜多隆子(歌人)
節気マーク・
はがきデザイン
金田あおい(藍寧舎)

事務局だより

2017
小雪号

冬を感じながら

事務局長 藤野正文

季節は、「立冬」から「小雪（しゅうせつ）」そして「大雪（たいせつ）」、続いて、あつという間に一年で昼の時間が短い「冬至」になってきますね。最近の地球温暖化のせいも少し感覚に合わないですが、季節は2月の「立春」までは冬。昨今では、本格的な冬に備えて元気を養う季節ということかもしれません。この季節の旬の食材は、白菜、春菊、大根など、お鍋を囲んで身体の芯から温まり、栄養のあるものが食べたくなくなりますね。朝夕の気温が低くなり、木枯らしが吹き、紅葉が散り始め、山が眠り、動物も冬ごもりを始めます。そういえば、お歳暮の準備をする時期。形式化し、儀礼的な面が強くなっているようですが、もともと先祖の祭りをするとき、その子孫が食物を持ち寄って共同飲食をするという行事に、この習俗の根源はあったようです。現代において、一方で前近代の虚礼といわれながらも、残っていますがお盆と同じく日本人の生活には先祖を大切に作る習慣が、根強くあるということなのでしょう。

います。その中に、さぞや立派な仏壇があったのでは？と推測できます。

仏壇は、江戸時代に幕府の政策で、何れかの寺院を菩提寺と定めその檀家になることが義務付けられ、その証として各戸ごとに仏壇を設け、先祖の命日には供養するという習慣が確立して、庶民の暮らしが豊かになってきたことも背景に、仏壇が庶民にまで浸透したとのことです。

現代では、仏間や仏壇もない家も多くなってきましたが、あわただしい現代生活のなかで、先祖の霊を大切に作る日本人のこころに気づき、ふと先人を思い出させてくれる奈良町にぎわいの家の仏間です。

手作りの作に感謝

ご近所の方、スタッフのご家族など、素敵な手作りの作をいただく機会に恵まれています。館内が和みます。

ここに、かさ地藏さん。見守ってくれています。



鮮やかな椿！
なんと折り紙。



その柿を見ながら
絵手紙を。食べて甘く
書いて楽しい
にぎわいの柿！



裏庭の柿が、枝がしなうほど
大きな実を沢山つけました。

にぎわい・秋風景

奈良町にぎわい通信vol.31

制作...奈良町にぎわいの家管理共同体
発行人...二十軒起夫
編集・構成...おの・こまち
表紙デザイン・レイアウト...福田昭一
撮影...奈良町にぎわいの家スタッフ

奈良町にぎわいの家 9:00~17:00 水曜日・休館
〒630-8333 奈良市中新屋町5 TEL 0742-20-1917
nigiwainoie@gmail.com
http://naramachi-nigiwainoie.jp/



書...逢香

奈良町にぎわいの家
オリジナル節気マーク



立冬

11/7~21



小雪

11/22~12/6

少年の日より愛でし
響きなり永訣といへば
霜夜明るむ
前登志夫(歌人)